

和朝  
今昔物語





今昔物語部 十目錄

○世俗傳

- 一 近江國久馳郡日堂供養田樂語
- 二 本寺基壇依物咎付異名語
- 三 助泥法師設破子語
- 四 盛秀法師入唐檀語
- 五 僧通敵上人室語
- 六 銀匠延正有罪入壺語
- 七 豊後講師以謀後鎮西上活語
- 八 阿蘇史諫盜賊逃難語





今昔物語(才草)十一  
一、木車籠

九 後經所傳碎葦死諸

十 金治之別處合葦葦不碎諸

十一 横河僧碎葦誦經諸

今昔物語 倭部 十

○世俗傳

一 迦江國矢馳郡司堂供養田樂諸

今昔比敵之乃西塔之教因府主といふ字生有。  
説經教化とありける。このは迦江國聖洲郡矢  
馳之住まむ郡司。年ごらけ人よあつらひあり。  
わらふたはけ郡司。いざや西塔よりゆぬ。供養何  
事ぬ本ありつる哉と問へ。郡司がいつく。年々乃親  
ふよんて佛堂はけり。移んごらよ。後世の  
たつとやいはけり。老の身あはれいふ。今後世の

今昔物語(才草)十一









ちがふといふべし。そのゆゑに。わがくやいひを  
 ぐらひといひまゐる馬も。素佐乃は師式人も。素  
 て相具し。其時白お装束し。男共も。件  
 馬は。いそよく打まて。いそ黒ちる田楽と。肢  
 うゆいつき。なまのひに。標をりら。笛吹ふたさ  
 拍子と。突机をりて。さぬぐれ田楽と。こつ物と  
 つ物よ。ゆきもそ吹。そくさつと。うたは。佐  
 これをみ。いそるまふら。あつんと。わがく  
 とも。同じき。田楽といひ。教田が馬乃。おねら  
 漁。わがく拍子と。うたは。うら。教田ね



いづるに。今日には。いづちて。けいの清兵衛。命あるほど。  
わきま。おろし。あつ。わいて。げ。奴魚。が。中。の。具。一。て。ゆ  
くば。外。目。よ。い。もの。が。ぬ。り。ま。中。う。う。や。ら。く。じ。あ  
知。ら。う。今。う。わ。い。ま。さ。う。や。お。し。ん。が。面。を。た。あ。ら。う。と  
ま。い。袖。を。も。つ。て。教。と。か。う。て。ゆ。い。う。う。う。及。ま。郡。司  
が。家。み。邊。に。く。く。た。門。前。を。ま。い。る。百。千。ぬ。及。ぶ。人  
ま。こ。ぞ。り。て。こ。れ。を。ま。る。侍。ま。い。ら。う。だ。て。ゆ。い。ま。さ。う。守  
あ。め。け。田。樂。奴。系。侍。ま。い。め。向。し。て。報。と。う。ら。登。乃  
上。う。け。ま。う。き。札。を。し。ら。ぬ。と。て。願。の。上。よ。は。の。こ。て。  
る。や。と。く。ゆ。い。ま。さ。ん。眼。立。こ。う。だ。ら。う。ま。い。郡。司。が

門。は。は。と。て。馬。より。あ。り。ひ。い。と。れ。い。郡。司。親。子。出。く。  
馬。乃。は。公。た。太。う。と。ら。て。家。あ。ぐ。う。家。の。心。よ。い。と。入  
ふ。侍。ま。い。ら。う。ま。さ。と。て。家。ま。て。せ。ら。せ。と。い。う。と。あ。あ。か  
く。け。る。や。と。い。し。て。耳。ふ。く。岡。入。と。田。樂。乃。奴。系  
ハ。馬。乃。た。あ。め。つ。と。あ。う。つ。と。あ。ら。た。と。く。舞。て。い。る。  
郡。司。上。ら。う。と。い。て。よ。く。は。ま。か。の。ま。と。い。い。報。と。う  
者。こ。人。の。う。く。い。さ。み。と。う。ら。ふ。う。う。侍。ま。い。ら。う。と。う  
お。う。う。な。い。よ。う。う。ん。ま。い。め。く。田。樂。乃。が。う。ら。う。い。ま。さ。い。が  
馬。が。う。ら。う。ま。い。ま。い。と。道。と。う。と。郡。司。親。子。廊。よ。う。ら  
と。ま。と。て。い。ま。さ。ん。せ。ら。う。て。な。げ。ま。と。う。と。う。侍。ま。い。郡。司。め



しうしては田樂の何の料まけよせよとあまざとて人び  
郡司がゆく。而な塔た母もありしに。念ねんはよする功徳くどく  
は樂がくよるころものねと作つく終はらくべもさきて  
作つくちり。儀ぎ師しを樂がく成なりしてしんをうぐと人乃  
りもば。あまをて作つくつるありと。志しころがわにりもば  
作つくちりとのねよとて。さていけ奴やつの田樂がく成なり樂がくと心  
ゆくりゆくこと知しく。妙めうくさるるえごころれども。ひ  
といふべし人あらうとくれば。形かたちのぞくはは奉ほうり  
ゆくりと。ゆくりとつて小僧せうじやうどもお中ちゆうにて。田樂がくの  
事こととくれば。とよみ紙かみはくつてけいひり。賤せん乃

田舎人いなかびとのいづりねるもの知しるものあはよ。ゆかりは  
け郡司ぐんじのあつたなる奴やつか。と。まゝ人ひとどもふとて。突つ  
いかりやわん。くりに傳つたへたりと也

二本ふたほんち基もと増ぞう依よ物もの替か付つけ異い名な諸しよ

今いまのひり一條いちじょう持もち政せい殿でん 實經公じつけいこう九大臣くさうだいじん從じゆ一いつ位い関かん白はく道家公だうかこう男おとこ 位い関かん白はく道家公だうかこう男おとこ 位い多た少しう

もら桃園うづもの今の世よ寺てらなり。と。まゝ寺てらにま長ながのちんおと  
経きやう抄しやうこゝろにまくると。山やま三井さんせい寺てらをま良よしのちんおと  
たれた学生がくせいども紙かみ急いそくいて清きよきくか。寢しん殿でんの南みなみ  
面めん沙さ須す經きやう所しよて。僧そう共どう居いまゝいて物もの倍ばいして居い  
たり。と。中ちゆうに山やま潜ひそ寺てらの僧そう伴ばん等どうがま紙かみ急いそくして











中流今更りて同く人ば。夢をまねけりて。それい  
ねて作ねと中流。僧正よのよるまゝなりけりか。  
僧正申しつゝやあやふ病も出来らんぬ。何とぞして  
う心事をば志つる哉と志つるまゝいふれば。わら瓜  
くうほしてあげ去り。そのころ前後お遠のり  
をば。脚泥が破子とついでありとわらん。諸  
はくえくくや

四 盛秀は師入唐檀諾

一本作感秀。一本作戒秀。未知何是。

今いむくあり長受飲の家了。祇園乃別園盛秀  
悲じておしひたり。わら瓜の守かへ出り向ふ。盛秀

入りて受飲が妻と戯を長くやまき守り  
くろくねばる女房も下女もそごろかろ。氣色を  
まび守りてかのみさあふ事わればとどくに奥  
へくろくふ唐檀ノノ鏢をけりて定めて盛秀と  
はゆよ入るるんとをねく長き侍一人を呼  
ては唐檀祇園ぬもこをりて誦經やて本は  
文を書きつゝまびは侍下人よもくをて祇園  
ゆきを侍もねよむかへけりてけきバ別園の他  
おとす種より志つて侍とて侍方は方ぬ  
づきとらぬらん。ねむらむとついで女の侍我を見作



いづくかへ行くは横をわきまんとりて。傍より内  
 外何れもさへいふごとくわきをて。別當のいづくは  
 りてさへいふごとく。唐櫓の中みそくもいづく  
 もあるなりと。色むしそふしきとつて。傍に誦  
 經乃出とこれをきてて。中よりあがらむ  
 て。さへいふわきを。ねむく。唐櫓のうらわ  
 くるふ。別當くむしとけし。僧どもこれと  
 見く。目もみゆかむと。まきば。誦經乃出と。迹  
 くるく。別當の唐櫓より出く。奥へけりて。かく  
 せり。そのころは。さへいふと。関つて。さへいふ。知いあり

と。さへいふ。さへいふ。さへいふ。さへいふ。

五 僧通殿上人室諾

今いづくかへ行くは横をわきまんとりて。傍より内  
 外何れもさへいふごとくわきをて。別當のいづくは  
 りてさへいふごとく。唐櫓の中みそくもいづく  
 もあるなりと。色むしそふしきとつて。傍に誦  
 經乃出とこれをきてて。中よりあがらむ  
 て。さへいふわきを。ねむく。唐櫓のうらわ  
 くるふ。別當くむしとけし。僧どもこれと  
 見く。目もみゆかむと。まきば。誦經乃出と。迹  
 くるく。別當の唐櫓より出く。奥へけりて。かく  
 せり。そのころは。さへいふと。関つて。さへいふ。知いあり











ついでに財寶とぬくま積むくまへようろうふ。  
 相もまほまのぞも。道こころの海賊かあつと笑つて。  
 ちうろんとおしり具をぶつて。船よの杖受かひく  
 杖ときほつてぐねづつあつて。後師うら  
 多し。海賊が物を我の船も。我物に海賊いぞ  
 ころんといつて。船に相給三腰より入くより  
 ころふ。あつて海賊船に被あつて。後師が船  
 さとらまふたて。其内の一被らくより。後師  
 まるの織物の巻巻と云。柑子色なる油の  
 帽をかして。簾をすこくすつて。海賊よびつて。

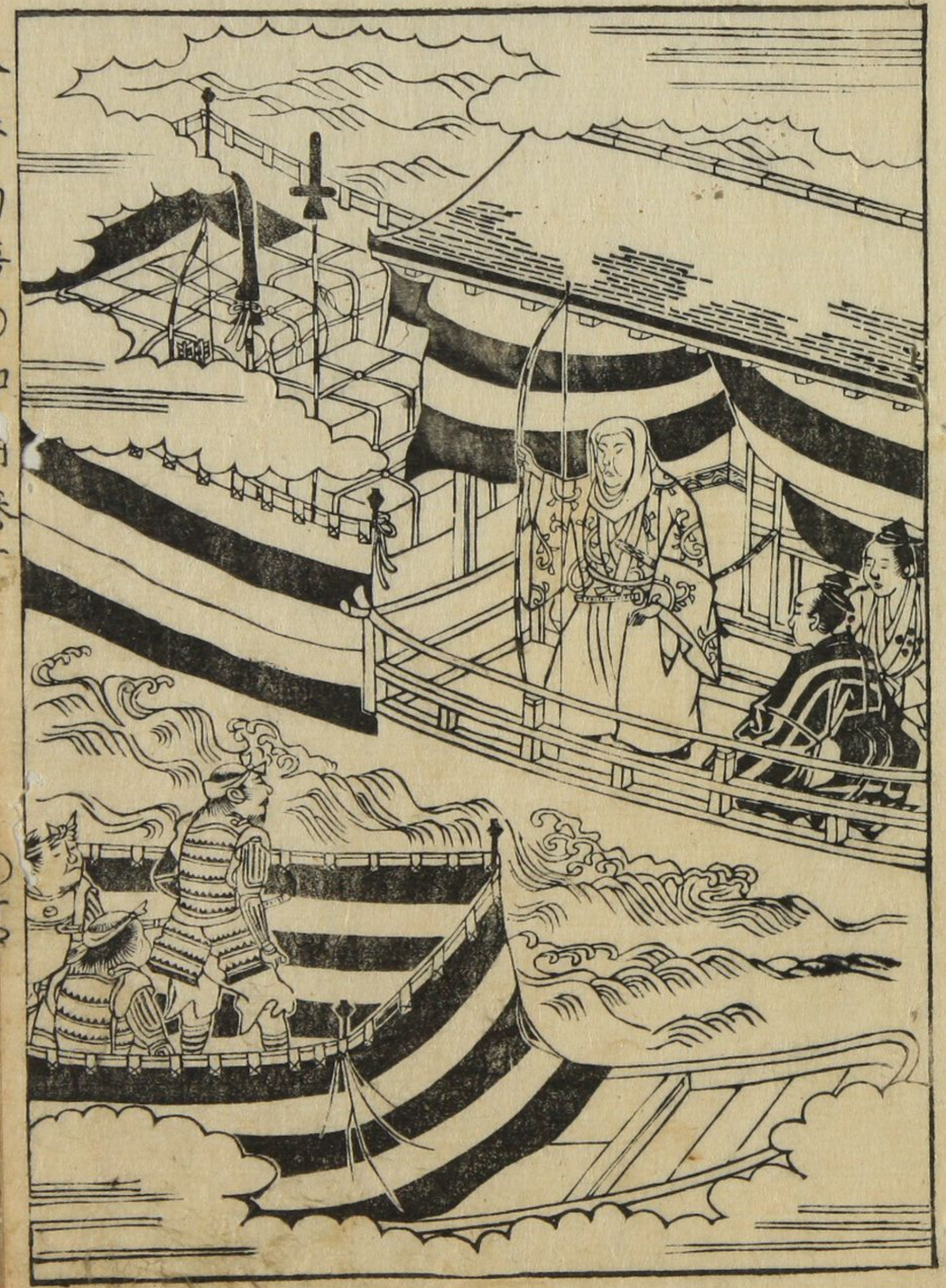
誰人のちうろは。富のちうろ。海賊いそ。後人の  
 糧少く。給らんが。あま。あつて。後師がいそ。  
 船よの糧も。金も。あつて。船よの糧も。あつて。  
 船よの人。たつて。伊佐入道。海賊よ。あつて。  
 きて。船よの物。あつて。船よの物。あつて。  
 たり。船よの物。あつて。船よの物。あつて。  
 合戦。船よの物。あつて。船よの物。あつて。  
 う。船よの物。あつて。船よの物。あつて。  
 を。船よの物。あつて。船よの物。あつて。  
 これ。船よの物。あつて。船よの物。あつて。



疾速よこしておと備出でてのさうれば。後師  
ハ虎口ぬのぐまらる。其時、後師、後者どもに是  
見よ。己等海賊の物とせしめたるか、自認しぬ。  
移るくまらぬのなり。又この國の後師よめてば、  
いさる人といふも、いさる人なり。道のりもを  
人よめてるけり。存佐、新夜意とくみまると  
おもしろく。い存佐よ、まらるるのぬちを  
おたぐるとも。いさる人なり。いさる人なり。

ハ 阿蘇史謀盗賊遁令語

今いひく阿蘇郡よ何某といふ史あり  
阿蘇郡在肥後國



阿蘇郡の和州編下







今いしりし寺堂に大花枇杷殿より候多しうり候。  
大政大者 沙徒経勤なる傍あり。枇杷殿の南に小家  
道長公 を房やして長入りけるふ。石仕り童子。小一條  
社内の友は木みせりる平草とせり候。持あり  
しう。僧より物持ありしとより候。て。け物  
さこのて才子僧と寺子とこと人合しけるが。各  
みり候。候いて師と寺子の死して。才子の傍  
存命しり。其由はた大花を多し候。あはれ  
せり候。先して。中ぐりりつる僧されり候。葬乃  
料は絹布米をぞせり候。といふ。いづれにあり才子

とせり候。車に乘りて葬り候。さうのらに  
東大寺にあり候。瓜をて。沙徒経瓜はくあはれ  
らる。は僧才子は下は師とよみて。いそり候。あや  
死んといふ。くゆい出しけるが。能く入り候。  
あ袖よりせり候。の平草とせり候。師の傍や  
かて下傍よりせり候。平草瓜焼清くさせて。是  
とせ。さういふ。合しり。同宿の僧これとみて。是  
い何方よりきたとせり候。道よりい平草瓜合  
して。蓋にありし人せり候。いあはれとつら。の傍  
がいろ。頂日傍に合して。死しり。平草はあり候。

今昔物語の御説書

の六



おはたついでに合掌をせしむるに答へ曰宿傍には  
つふふとくまをぞ物よつらひまよふ中つらば僧  
笑く。あぢあぢとけれびとまらつらつひくる。曰宿  
の僧殿よまらておひかすべし。教あやま  
まらすこのつらむいて。清し後後とく後。此の何と  
せしめて平尊の合掌をさすと向きまらば。傍  
くらは。あぢあぢとくまらまらまら身よけへ。死作らんよ  
の大路よとてして作らんと。さへいさくれしえ  
ゆら。頃日僧何来が尊の毒ありあつて死作  
らば。葬料をさぬつらて死にんまらまらあつらぶ。

あまらたついでに合掌をせしむるに答へ曰宿傍には  
つふふとくまをぞ物よつらひまよふ中つらば僧  
笑く。あぢあぢとけれびとまらつらつひくる。曰宿  
の僧殿よまらておひかすべし。教あやま  
まらすこのつらむいて。清し後後とく後。此の何と  
せしめて平尊の合掌をさすと向きまらば。傍  
くらは。あぢあぢとくまらまらまら身よけへ。死作らんよ  
の大路よとてして作らんと。さへいさくれしえ  
ゆら。頃日僧何来が尊の毒ありあつて死作  
らば。葬料をさぬつらて死にんまらまらあつらぶ。

十 金澤の別當合掌毒尊不辭語

今いひし合掌の別當とてありまらむ。傍  
つらつら別當いふら二福と申いさく。道正いさく  
事たり。まらつら一福乃む傍別當とらん。次  
福の傍わつてば別當死く。我別當いさくと

合掌物語の御難題

のたて













今昔物語 (和)



